

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170400671		
法人名	有限会社ジョイケアサービス		
事業所名	グループホームジョイ		
所在地	岐阜県羽島市堀津町横手1-36		
自己評価作成日	令和2年10月9日	評価結果市町村受理日	令和2年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoOd=2170400671-00&amp;SerVi.ceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoOd=2170400671-00&amp;SerVi.ceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和2年11月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

『生き活き』を理念に掲げ、日常生活を通して生き生きと活動できるように支援しています。調理・掃除・洗濯等の家事を職員や利用者同士が一緒に行い、お互いを支え合っています。体調面でも事業所内の看護職員と連携委託先の訪問看護師が協力し、きめ細かく対応できる体制を整えています。重度化した場合には、事業所でできることを都度家族に伝え、協力医の指示の下で看取りをした経験があります。今年度は事業所への出入りを制限する中でも、ご家族等との交流を確保できるようオンライン面会を開始しました。日頃からメールやメッセージアプリを利用し、気軽に情報共有できるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は、利用者や職員が全員で「認めあい・支えあい」協力し合って「生き活き」と楽しく共同生活を送れるように取り組んでいる。食事の準備・洗濯・掃除など利用者一人ひとりの力を活かして助け合いながら張り合いや喜びのある日常となるよう支援している。コロナ禍で地域行事が中止となり交流する機会が減っているが、天気の良い日は神社や公園・事業所付近を散歩して近隣住民と会釈で挨拶を交わして交流している。面会制限の中、メールやメッセージアプリ・電話などで様子を知らせて連絡を取り合い、オンライン面会や玄関先での面会を行い家族との関係を大切にしている。管理者は、職員が提案や要望など言いやすい雰囲気を作り、職員の様子を気にかけて話を聞くようにしている。家庭の事情に合わせ勤務時間にも柔軟に対応して働きやすい職場づくりに努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き」「認め合い、支えあい」を理念にして玄関にも大きく掲げている。	利用者と職員・利用者同士・職員同士が、協力し合い支え合って、生き生きと楽しく過ごせるように取り組んでいる。利用者の出来る力を活かす支援を心がけ、会議などで話し合いながら理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、回覧板・ごみ当番等の役員も引き受けている。町内イベントに参加し、作品を出品したり地域の人たちと交流している。	散歩や運動会・祭・作品展などの地域行事に参加して交流している。町内会の役員も引き受けている。自粛中も神社や公園に散歩に出かけ、近所の人には会釈で挨拶をしている。散歩中に野菜をもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内の行事への参加によって、認知症の理解や認識を深めていただくことができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営会議では事業所状況報告を行っている。防犯・災害に対するの対策や助言をいただいた。コロナ禍の現在は書面にて報告している。	交番職員や消防署員・市議員などの参加もあり、専門的な立場からの意見が出ている。避難方法や備蓄品についてのアドバイスを受け確認をした。休止中は、書面で事業所の取り組みや状況の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センターと市の職員のどちらかの参加をいただいている。連絡協議会や研修にも参加し、市の担当者とは協力的な関係性を築けている。	市主催の研修や会議に参加して意見交換をしている。困り事があれば電話や市役所に出向いて相談をしている。担当者から空き情報の確認や入居の依頼を受け、大雨時には電話がかかるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は早朝・夜間のみに行っている。身体拘束の研修は定期的に行い、職員間で身体拘束をしないケアに対して理解を深め実践している。	定期的な研修や勉強会に参加して、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束など具体的な行為も理解している。玄関は施錠せず、出かけようとする利用者の気持ちを尊重して、引き止めずに一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に虐待防止の知識を深める機会を日頃から作っている。何が虐待につながっていくのかを考え支援を行っている。また研修もしている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者が成年後見人の制度を使用しているため、制度について説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に時間をとって、事業所について説明、質疑に答えながら理解を得ている。重要事項説明書・契約書を、家族・代理人と共に確認しながら契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者や家族と話しやすい関係を築けるよう努めている。メールやメッセージアプリを利用し、意見・要望を伝えられるようにしている。	電話やメール・手紙などで意見や要望を聞いている。退院後のリハビリに対する質問や要望には、その都度丁寧に答えている。コロナ禍の面会の要望には、オンライン面会や感染対策をして玄関先での面会で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共に職員と同じシフトに入っており、職員の不満や要望・意見等を聞きやすい環境である。	管理者は、言いやすい雰囲気を作り日頃から職員の要望などを聞いている。様子や顔色を見て声かけをする時もある。ケアに関する提案を取り入れ、勤務時間は職員の事情に合わせて、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の仕事に対する姿勢を把握し、前向きな気持ちで働けるよう努めている。職員自身の健康状態、育児や介護、その他家庭の事情にあった勤務時間を設定し、柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の試験等の勉強会を個々に行ったり、支援困難例に対する研修や個別に支援方法を学ぶ機会をつくったりしている。定期的な事業所内研修も行い資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2020年現在は、他事業所と交流することが難しくなっている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階でご本人との面談・入居前の生活歴・生活状況・ご本人のお話を伺いご本人が安心して入居に至るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でご家族との面談を行い、不安や要望を伺うことにご家族が安心して契約に至ることができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受け、ご本人の状況とご家族の意向を伺い検討した結果、他のサービスにつなげたことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるよう、「認め合い支えあう」存在であることを実践できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の支援について相談し連携を取っていく関係を築いている。施設内外での行事にお誘いし、一緒に楽しむことができる場をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年まではバーベキューや新年会といった行事を一緒に楽しんだ。現在はオンライン面会や電話、手紙などの手段を使い絆や関係が保てるよう努めている。	以前のように、馴染みの場所へ出かけたり、遠方の家族や友人を招いたりした行事はできなくなったが、友人から電話をもらったり手紙を書いたり、オンライン面会や玄関先での面会で関係を継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の席を配慮し、必要時は職員が仲介して良好な関係を作れるように努めている。また利用者同士で居室訪問をしたりと、孤立感や孤独感のない生活ができるよう支援に努めている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方を施設行事に招いている。退去後の生活についての相談や、心身状況にあった次の施設検討を行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を表せられる方には本人の言葉や表情から確認している。本人から引き出せない方には家族から職歴・生活歴・趣味等聞き取り、本人の意向に沿っていると思われる生活ができるよう支援している。	表情や朝一番の挨拶、バイタルチェックなどでその日の様子を確認している。会話や家族からの情報を基に希望や意向を把握している。本人の言葉の裏の気持ちを思いやることにも努めている。得た情報は全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のアセスメントを実施し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や職員間で情報共有することで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、本人と家族の意向や要望・不満を聞き取り把握している。利用者には担当者がおり、毎月モニタリングを実施している。ケアの更新時には担当者会議も行いケアプランに反映できるようにしている。	利用者・家族の要望、担当職員が毎月行うモニタリング、個人記録などを基に原案を作りカンファレンスで意見を出し合って介護計画を作成している。状態変化時は、その都度見直している。医師の意見を取り入れることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ジョイ日誌・個人記録・夜勤日誌を通して利用者の1日の状態を把握し、職員間で情報共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門病院の受診に同行したり、同行できない時は文書を用意している。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・羽島市高齢福祉課・地域の役員・町内会・交番職員・消防署職員等となじみの関係が築けており個々の必要に応じて協力体制ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を選択していただき、本人や家族の意向に沿った医療を提供している。歯科においても、本人や家族等と相談・検討して受診できるよう支援している。	本人・家族の意向で協力医に変更して訪問診療を受けている。従来のかかりつけ医や専門医の受診は家族が同行している。受診時は、状態を文書や口頭で伝え報告を受けている。緊急時は看護師が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での変化や体調不良の際には、看護職員と訪問看護師に連絡出来ている。主治医につなげ必要な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はソーシャルワーカーや担当看護師と情報共有している。薬剤師とも連携し安心して退院できる体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについて事業所の方針を説明し本人・家族の意向を伺っている。状況に応じ家族・主治医・看護師との面談の機会を作り、意向確認や看取りの方向性の検討をしている。	契約時に事業所の方針を説明して意向を聞き、毎月の現状報告時に家族の考えを確認している。状態に応じて医師・看護師を交えて話し合い、書面を交わしている。職員には会議で話し合いケアの指導もしている。最期を家族と一緒に過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年事業所内研修で緊急時や事故発生時の対応について学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災・地震・洪水を想定した避難訓練を行っている。今期は洪水に対してのマニュアルを新しく作成し、常時確認できるように備えてある。	運営推進会議の意見から、備品や非常食・避難口の確認を行った。日頃から近隣住民に協力依頼の声かけをしている。火災・地震・水害を想定した訓練を年2回行っているが、夜間想定をした訓練が行われてない。	職員が一人しかいない夜間を想定した訓練は重要である。必ず実施することを望む。

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を守る声かけができるよう努めている。不適切な対応があった場合、運営会議・全体ミーティングで取り上げて改善している。	排泄時や着替え時はドアを閉める、一人ひとりに合わせた声かけをする、利用者の出来る力を認めてむやみに手を出さず見守るなど、プライバシーや自尊心を損ねないように注意して日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない話や呟き、一言から本人からの希望や思いをくみ取れるよう努めている。信頼関係を構築し、思いを表現できる関係を築いている。また自己決定し表現できる場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活スタイルに合ったペースで過ごせるよう支援している。日中もリビングと居室を自由に行き来ができ、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室やなじみの美容院を利用している。化粧をしたり着たい洋服を選択できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に下準備、調理、盛り付け、片付け等行っている。メニューを一緒に考えたり食事に使うおしぼりを畳んだり、できることを協力して行っている。調理中のおいしさや音も食意欲につながっている。	利用者と一緒にメニューを考え、パンや麺類など一人ひとりの好みにも対応している。調理・盛り付け・テーブル拭きなど利用者も一緒に行っている。職員もテーブルを共にして楽しめるよう支援している。テラスで昼食やお茶を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や水分・食事摂取量・排泄状況を観察し、足りない部分には、個々の嗜好に基づいて、パン・稲荷寿司・うどん・果物などを提供している。咀嚼や嚥下に問題がある利用者は、歯科と連携し食形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要ならば介助をしている。希望者には週1回歯科衛生士が口腔ケアを行い歯科トラブルがあれば歯科医の治療を受けられるよう支援している。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく、仕草や表情を観察しトイレに誘うことで排泄の自立に向けて支援している。夜間の歩行が不安な方は、ポータブルトイレを使用している。	トイレでの排泄を基本として、時間や表情などを見てトイレへ誘導している。看取りの直前まで二人介助でトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレも使用するが、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水の提供や乳製品・食物繊維を取り入れた食事を提供している。便秘気味の方には腰をひねる運動や腹部マッサージの支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況に合わせて早朝・午前中も入浴を行っている。気持ちよく入れるタイミングに入浴支援している。入浴後の飲み物や洋服を選択できるよう場面設定をしている。	基本は週3回であるが、毎日でも入浴できる。気持ちよく入浴できる事を大切に、希望があれば早朝や就寝前でも対応している。入浴後のノンアルコールビールを楽しみにしている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体調に応じて休息できるよう誘導している。夜間は間接照明を自室に置いたり、テレビやラジオの音を聞きながら休息したり、本人の希望する形で安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報は職員全員が内容を把握できるようにしている。お薬カレンダーを使用し誤薬のないよう注意している。服薬時は日付・名前の確認し、手渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を参考にし、利用者にあった活動…洗濯物干し・たたみ・食事準備・食器片づけ・掃除といった家事活動、歌・パズル・数字さがしといった趣味活動の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	神社への参拝や季節の花摘みを兼ねた散歩など、個々に合わせた支援を行っている。家族宅への宿泊・お墓参り等家族との外出・外食を楽しめるよう、心身状況や注意事項を口頭や書面で伝えている。	天気の良い日は、洗濯物を干したり、近くの公園や神社を散歩したりしている。選挙に行く人もいる。家族の協力を得て宿泊や墓参りに出かけている。コロナ禍であっても、戸外に出かけられるよう支援している。	

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かり、嗜好品等の購入を行っている。外出の際には自分でお金が払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話・オンラインでの面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた行事の飾りつけをスタッフと利用者で協力して行っている。季節によってエアコンや加湿器を使用し、快適な生活ができるよう調整している。	換気や室温・湿度に注意を払い、快適な環境と感染症対策に配慮している。生花やクリスマスの飾りつけをしたり、テラスに洗濯物を干したりして季節感や生活感を採り入れている。利用者と一緒に掃除やモップ掛けをして居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの関係性によって席の配置を変えたり、気の合う利用者同士で活動できるよう配慮したり、個々の意見も尊重し思い思いに生活できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具や洋服・アルバム・家族の写真を置き、居心地のよい空間が作れるように支援している。	入居時に使い慣れた物を持参してもらうよう伝えている。筆筒や椅子・テレビ・冷蔵庫・思い出のアルバムなどを置き、壁には家族写真やひ孫が書いた絵などを飾って、利用者が安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付がわかるよう日めくりカレンダーや新聞を利用している。トイレの位置や自室がわかるように、視線の高さに合わせた目印や名前表示を行っている。		